

# 通信稲穂 35号

発行日 2016年・夏

発行者 〒399-8501 長野県北安曇郡  
松川村 627 宮田兼任

電話 0261-62-8630 090-2431-8817

## 農園の様子

みなさんこんにちは、7月下旬我が家の農作物たちも日増しに大きくなり、まずは女房が手掛ける野菜たち、幾分販売もしますが殆ど自家用で、これを食べて心身共に元気をもらいます。夏を乗り切る食欲増進に欠かせません。畑には草も元気一杯育っています。夏を乗り切る食欲増進に欠かせません。畑には草も元気一杯育っています。

稲は昨年より収量が上がる田んぼもありますが、逆に下がる田んぼもあります。原因は昨年晩秋の雨で、宿根性の草が繁茂している田んぼの転地返しが出来なくて、球根を冬の氷点下に曝す事が出来なかったからと考えています。春を迎え6月(初夏)に入ると急激に伸び始めます。除草は植えて30日間位で最後としなければなりません。この時期は穂作りに入るために、根をしっかり張って株数確保と母体作りの最後のチャンスですが、除草は張った根を切断する事にもなります。7月下旬、稲と草の軍配は5分5分という田んぼも有りますが、全体の平均では昨年並みの収量が見込めるので、悔しいですがホットしています。人が手掛けるものは野生の生命力には敵わない感じですよ。

試行錯誤の猛暑対策は・・・?

厳しい猛暑で稲穂の空洞化や玄米の乳白化が目立っています。穂が十分稔る準備が出来ていても、暑さから身を守る方へ養分が奪われるため、未熟な穂が多くなると言われています。私に対策として考えた事は、横に伸びる根を下に伸びるようにすれば地上の高温の影響を少なくする事ができ、少しでも稲の体力が維持できるのに役立つと考え、最後の除草を兼ねて株間を1条毎に溝切りして見ました。しかし水田は泥なので畑の畝立ての様には行かない難しさがあります。目に見えるような成果があれば良いのですが。水管理から検討が必要です。

大豆と黒豆も発芽から1ヵ月間、3~4回除草を繰り返す事で、草より優勢に育ち、開花の時期を迎えました。あとは8月一杯の結実期に適度に雨が降れば10月半ばに豊作を迎える事が出来ます。途中枝豆で食べるのが楽しみです。

餅と酒米の水田で働いた合鴨は7月下旬に引き上げて、育苗ハウスに戻しました。これから11月下旬までハウス内の草を食べたり、餌を与えて大きく育てて頂きます。最高位の安全な食肉になるのです。

## 収穫を迎えるにあたって

### 春作業から今日まで

あと1ヶ月で稲の刈り取りが始まります。今年もやはり温暖化のため、更に収穫期が早まりそうで、早ければ8月末には刈り取りが始まる勢いです。真夏の暑さの中での稲刈りは耐え難いものがあります。

モチはハザ掛け天日干しです。体験希望者歓迎です!

春の種蒔きは研修の人たちが来てくれて助かりました。初めて娘に代掻きを覚えてもらいました。田植機の扱いも練習しました。田植え補助員は15年のベテランが頼りです。大仕事ですが田畑の除草は私が受け持ち、畦草刈りはほぼ娘の仕事です。お米の出荷は全面的に娘に任せてあります。稲の刈り取りは私が出来るような気がします。昨年は退院して間もない事から友人達に刈り取りを頼みました。いま収穫目前になりましたが、本当に多くの方々から励ましや気遣いを頂きました。肺の手術から1年が経ちました。自分の体力と相談しながら、一日一日を慎重に働き、明日も働ける事を願いながら、農薬を使わない農業を無事にやり切った！という感じです。



(初めて田植機を扱う娘・・・慎重です)

**お米の中に混入物・・・**それから気になるのは、玄米や白米に黒い斑点があったり「異物」の様な雑穀や草の種が混入する場合があります。斑点は籾より小さい「カメムシ」による食害です。一般の農家は「カメムシ」駆除に農薬を使います。また雑穀や草の種などを除去するには強力な除草剤を使うとか高額な除去専用機が必要になります。機械を設置して対処できれば良いの

ですが、ひどい物は取り替えますので申し出ていただきたいと思います。

### \*..ご注文いただける作物..\*

①お米、 ②黒豆、③大豆

限定・・・餅米（古代米）、合鴨肉

純米酒（合鴨米）製造業者委託

うるち米の稲の種類は・・・9割がコシヒカリですがササニシキも人気がありますので幾分作付けを増やしてみました。収穫量は希望される方全員の一年分は無いと思いますが、どちらかと言いますとササニシキはアトピー体質とか体調が整わない方に吸収が体に優しいと言われていました。

### 合鴨肉・・・包丁一本で

50羽の解体は大変な作業です。自分から解体する人と羽根だけでも抜いて下さる方は歓迎です。

### 後記

我が家にやってくるツバメ達は幸せだと言うお客さんがいます。毎日庭先を30羽近いツバメが賑やかに飛び交っています。トンボが羽化する頃から田んぼは生き物がたくさん発生します。豊富で安全な餌が子育てには欠かせません。ツバメは幾らでも子作りに励めます。

草が繁茂したり多様な生き物がいる田んぼも畑も、生き物にとっては楽園です。私達人間もそうした環境に安心な未来を感じます。ツバメ達が毎年きてくれる事に感謝し心が和みます。程よい関係で共存したいと眺めています。そんな中、我が家の黒猫クッキーは本当に良くネズミを退治してくれる優秀な猫ですが、ツバメにとっては凶悪

犯罪者です。スズメは勿論ツバメの雛まで食べちゃいます。親ツバメに空から襲撃されてクッキーはコソコソ逃げ隠れしています。総て食物連鎖の世界とは言へ気まぐれネコで困ります。



(親ツバメから餌をもらう雛たち)



(凶悪犯罪者・・・クッキー)

## \*・28年産お米の予約賜りま

す

様

昨年の予約数量	k g
今年の実際の利用量	k g

8月末までに予約の申し込みが無い場合は今年の実際の利用量で承ることにいたします。また当方で示した今年の実際の使用量をご覧になって、それで良い方は改めて予約いただかなくても結構だと思います。

尚次年度からは不要となる場合は必ずお知らせくださるよう宜しくお願いします。

ササニシキ希望の場合やお米以外の農産物を希望される方も、ご予約をお願いします。

金額は今年も変わりません。

**連絡先・・・電話 0261.62-8630**

**ファクスー同じ**

**携帯 090.2431-8817**

**朝は7時頃から**

**夜間は9時前にお願いします。**

昼間は留守番電話かファクスがあり難いです。

携帯は直ぐに出られない事があります。SMSメールでも大丈夫です。